

ふるさとを愛し、愛される大海っ子の育成

～地域を知り、地域とふれあうことを通して～

山口市立大海小学校教育報徳会

1 学校地域の概要

教育報徳会会長 : 福田 洋 人
 学 校 長 : 中 原 誠 輔
 児 童 数 : 106 人
 会 員 数 : 家庭数 75 教職員数 18
 所 在 地 : 〒754-1101
 山口県山口市秋穂東 2299 番地



本校は海と山に囲まれた自然豊かな地、山口市秋穂の大海地区にある全校児童 106 人、家庭数 75 の小規模な小学校である。明治 7 年に第十一大区第二小区大海小学として開校し、今年で 145 年を迎える歴史ある小学校である。

本校区は、昔から漁業や農業が盛んな地域であったが、産業構造の変化で現在はその姿を見ることが少なくなっている。その昔は砂浜にあふれんばかりの漁船が停泊する姿や、魚市場の競りの声を聴きながら登校することも当たり前の日常であったが、昨今漁師の従事者不足が進み、近年では魚市場が閉場するなど規模の縮小を余儀なくされている。校区内在住の若い世代の多くは市内や防府方面へ通勤しながら生計を立てている。その一方で、本校区はみかん栽培が盛んな地域であり、秋になると山々に黄色いみかんがたわわに実り、みかん狩りを楽しむ人でにぎわう。

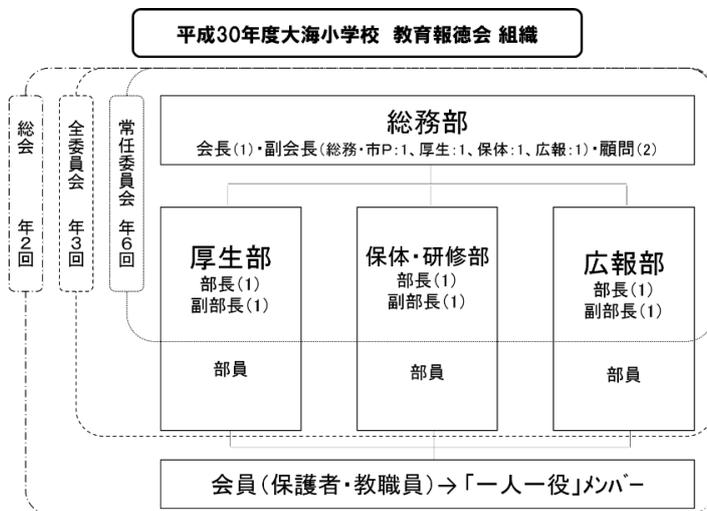
本校は、PTA の名称を「教育報徳会」としており、本校区在住の人は「報徳会」というと大海小学校の PTA を指す名称であることをしっかり認識している。そのため、「賛助会員」として校区全体で本校並びに本会を支えていただいているとともに、「学校のためなら」と力を貸してくれる地域の人が多いことは幸いなことである。

2 教育報徳会組織

教育報徳会は総務部、厚生部、保体・研修部、広報部の 4 つの部で構成されている。各部の部員の中から部長・副部長を選出し、常任委員会並びに全委員会を開催し、活動を行っている。

しかしながら、昨今の児童数減少に伴う家庭数減少により、活動を部員だけで担うことに限界が生じはじめており、ここ数年課題となっていた。

そのため、本年度より「一人一役」制を導入し、部員と共に保護者全員で活動を支える取り組みを始めたところである。



3 研究テーマ

「ふるさとを愛し、愛される大海っ子の育成 ～地域を知り、地域とふれあうことを通して～」

本会は、子どもたちがたくましく、すくすくと育つための教育環境を整えるべく活動している。この活動をより深化、発展させるうえで、このかけがえのない子どもたちのふるさと「大海」を知ること、そしてそんなふるさとを支える地域の人々と触れ合うことから学びを得ることはとても有意義であると確信している。子どもたちがこれから成長して大人になっていくうえで、ふるさとという環境から与えられるものは、必ずや「生きる力」の基礎になると考える。子どもたちが地域から愛されているという感覚を持ちつつ、ふるさとを愛する思いを持つことに寄与したいと願うのである。

また、本校の学校教育目標「夢の実現に向けて意欲的に学ぶ子どもの育成～ふるさと大海の『人・もの・こと』との関わり合いを大切に～」に対して、本会も一体となってその具現化を支援しようと考えた。

以上のことから、各関係機関の指導、協力を仰ぎながら取り組みを進めることを前提に、本年度は上記テーマを定め、活動を行った。

※「しらはま」とは・・・
本校校歌の3番に「大海白々 あゝの浜の～♪」という歌詞がありその「白」と「浜」を合わせた言葉であるとともに、総合学習における「し」…してみよう、「ら」…調べよう、「は」…発表しよう、「ま」…まとめよう という意味を込めた大海小学校独自の言葉。

4 活動内容

(1) 地域を知る取り組み

①校内掲示「みんなのふるさと『大海』を知ろう！ しらはま※掲示板」

本校区「大海」は、読んで字のごとく、眼前に大きな海が広がる地域である。昔から漁業や塩業が盛んであったが、現在は塩田も廃止され、漁業を営む人も少ないことから、大海地域が海と密接なつながりがあることを意識することが少ない状況である。また、今の大海地域が成り立つ背景に、昔の人たちの暮らしがあり、大海を守ってきた尊い働きがあったことを少しでも知る機会を作りたいと考えた。

そこで、大海地域の過去を知ることで現在を、そして未来を創造するきっかけ作りになればと「しらはま掲示板」を校長室前に設けた。職員室へ向かう子どもたちや教職員の目に留まるようにする工夫を凝らした。また、学校行事に関連する内容をその開催月のしらはま掲示板のテーマにし、子どもたちの興味関心を高めることに心がけた。



- 第1回（6月）：「これはどこにある、
なんていう名前のところかな？」
- 第2回（7月）：「大海のむかし、今、そして未来」
- 第3回（9月）：「大海小から伝える平和の大切さ」
- 第4回（10月）：「大海小の校歌はふるさとの歌」
- 第5回（11月）：「道一すじ 浜村秀雄さん」
- 第6回（1月）：「画家小林和作画伯」
- 第7回（2月）：「第二校歌『海よ山よ』が伝えるもの」
- 第8回（3月）：「ふるさとを愛し、愛される大海の子」



② 広報誌を活用「しらはま掲示板」

本会では6月と3月の年2回、校区内全世帯に向けて「広報誌 大海」を発行し、子どもたちの笑顔や学校での元気な様子を地域の方々にお伝えしている。

本年6月に発行した第161号では、本校卒業生で全国的に名が知れている洋画壇の重鎮 小林和作画伯の生誕130年を記念し、画伯の人柄や功績を紹介した。子どもが読んでもわかるように漢字に読み仮名を振り、平明に心がけた。

また、通学路である市道 大河内浜内線 は歩道のない狭い道路であるが、車通りも多く、子どもたちの安全確保に頭を抱える場所の一つとなっていた。そんな中、地域の方々のご尽力で路側帯の傍に「グリーンベルト」が敷設されたので、それを知らせる記事も掲載した。



「広報誌大海」に掲載したしらはま掲示板

③ 大海の魅力発信！「ふるさと大海自慢コンクール」

あたり前に暮らしている大海について、意図的に考えるきっかけ作りの一環で、絵画と作文を通して子どもたちにふるさと大海を知り、考え、そして伝えてもらう機会を設けた。

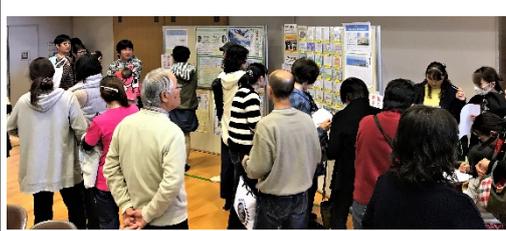
大海地域には「らんらんどーム（山口市大海総合センター多目的ホール）」という大きな、そして特徴的（銀色でたまご型）な建物があり、その隣のグラウンドでは土日になると子どもたちがサッカーの試合で盛り上がる場所である。絵画の部では、そんな大海の

ランドマークである「らんらんどーム」に楽しくなるような絵を描いて、みんなに来てもらえる場所にしよう、と投げかけた。また、作文の部では、「私が考える未来の大海」というテーマで、今の大海を通して一人ひとりが考える未来の大海について書いてもらおうと投げかけた。

その結果、絵画の部・作文の部ともに工夫を凝らした作品の応募がたくさんあった。応募作品については、本会のみならず保護者や地域の人にも選考してもらい、表彰するとともに、表彰作品を掲載したノートを作成し、全校児童へ配布した。また、仮入学にきた子ども



校内音楽会で展示し、保護者や地域の人に見てもらいました



コンクール作品を掲載した自由帳を作成し、全児童に配布しました

らんらんどームで作品展を開催しました
(山口市大海総合センターの方々に協力していただきました)



たちや来校者へのプレゼントに用いてもらえるようにした。

さらには、多くの方に見てもらえるように、「らんらんドーム」と「山口市秋穂総合支所」市民ホールにて本コンクールの作品展を開催した。思いがけないことだったが、本コンクールの作品が校区内にある「道の駅あいお」の包装紙に採用してもらえることになり、子どもたちの描いた「らんらんドーム」が地域内外の多くの方に見て頂く機会を設けることができた。

④命を通してふるさとを考える「いのちの授業」

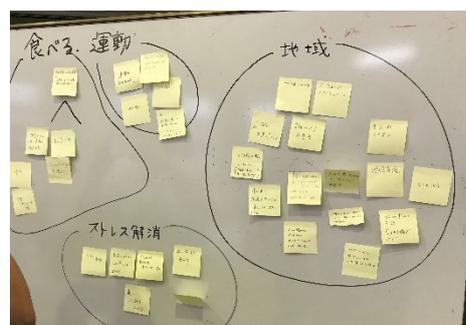
学校行事である「学校保健安全委員会」の講師に、山口県立総合医療センターへき地医療支援部診療部長の原田昌範先生をお招きし、「地域で育てる、地域で育つ」と題して講義をしていただいた。その学校保健安全委員会開催前に、3・4年生を対象とした特別授業「いのちと向き合う」を実施した。

子どもたちに対しては、事前課題として「小学生のみんながここ大海で、こころもからだも元気にすごすには、どんなことができるか？」ということについて考えてきてもらい、授業に臨んでもらった。聴診器で自分の心臓の音を、そして友達の音を聞き、生きていることを実感するとともに、先生役と患者役になりロールプレイを試したり。白衣を着て「暑かった」との印象を持つ子もいれば、将来の夢を「お医者さん」という子もいたり、先生の授業を通して、いろいろな思いを持ったようである。また、事前課題で考えたこととして、「早寝早起き」や「運動」、「食事」もさることながら、「近所の人に元気よくあいさつをする」や「浜の海をきれいにする」など、自分が健康であることは、地域の人や環境とも関係していることについて気付いたようであった。

その後の学校保健安全委員会では、子どもたちの授業の流れで、「生まれ育った大海で、子どもたちが年をとっても健康で元気に暮らすために親が出来ること」について保護者同士で考える機会を持った。保護者の感想の中には「今自分たちに何ができるのか、何をすればいいのか、考える時間が持ててよかった。生まれ育った地域に子どもたちが帰ってくるような環境を私たちが作っていかないといけないと考えさせられた」というものもあり、とても有意義であった様子がうかがえた。原田先生からも「このテーマで『地域』に関するものがこれだけ多いのは珍しく、大海の地域性が出ているのでは」との感想をいただいた。



講師：原田 昌範先生



グループワークで多く挙がったカテゴリ「地域」



白衣を着て聴診器をあてる様子
「トクントクンって聞こえますね」



原田先生から質問される子ども
「うーん、なんだろう？」



保護者も真剣に考えています
「色々なことを考えさせられるね」

(2) 地域とふれあう取り組み

①地域の方へ感謝しよう～感謝状贈呈～

毎年5月の第三日曜日に開催する大運動会。今年も地域の方にお越しいただこうと、プログラムを全世帯に配布、手書きの招待状を回覧するなど行った。また、自転車で来校する方も多いため、駐輪場の位置をグラウンドに近い場所へ変更するなど、来校しやすい環境整備も行った。そうして開催した大運動会、晴天に恵まれ、沢山の方に来校いただき、観覧していただくことができた。

今年は、地域の方への感謝を込めて、子どもも保護者も一堂に会する大運動会会場で、そして昼食前、午前中最後のプログラムである団体演技「はるかな海原（踊り）」終了後に、感謝状の贈呈式を行った。

雨の日も風の日も、子どもたちの登下校の安全を見守っていただいている「防犯パトロールおおみ活動推進協議会」の方に対して、子どもたちは毎年感謝の集いを開催しているが、保護者も含めて感謝の意を伝えたいと願い、この場で開催した。

防犯パトロールの代表の方からは「こんなにうれしいことはない。でも、子どもたちから元気をもたらしているということを考えると、自分たちが大海小学校の子どもたちに感謝状を贈りたいくらい」との言葉をいただいた。

未来を担う子どもの安全が地域の方々から「守られている」ということに対して、子どもとともに保護者も感じることでできるいい機会になった。



「防犯パトロールおおみ」の方へ感謝状を贈呈。グラウンドには全校児童とその保護者が見守っている。

②「おおみの会」発会 「流しそうめん大会」と「凧あげ大会」

大海小学校には「おやじの会」というものがない。以前はあったが、いつしか無くなってしまったのである。この背景には、「おやじ」「おふくろ」ではなく、保護者や地域みんなで学校を応援するという考え方が教育報徳会のなかにあったことが影響していると考えている。そんな中、大海小学校に属する保護者だけではなく、また性別にこだわらず、地域の方にも参加していただける会を結成したいという機運が高まった。そしてその活動は「ゆる～く」であった。

そこで結成したのが「おおみの会」である。決まりもなく義務でもなく、「小学校のために」「子どものために」と汗を流そうという人たち誰でも参加し、楽しいことをやろうという会である。

その発会を記念して、本会主催の親睦球技大会後に「流しそうめん大会」を開催した。流しそうめんには多くの子どもが詰めかけ、すくっては食べ、すくっては食べ…。総勢150名超の参加の中、茹でたそうめんはなんと15キロ！

また、冬には「凧あげ大会」を開催。自分で凧を作り、自慢の凧をあげてもらった。残念ながら当日は雨や雪の降る日となったため、体育館内で凧をあげることになったが、30名の子ども達に



とっては、日本の伝統文化に触れる良い機会になった。

「子どもが楽しきゃ、大人も楽しい」の名の通り、子どもたちが楽しく学校生活を送ることができるということは、大人も楽しいし安心できるのである。そんな学校づくりに寄与できるように、地域を巻き込んで出来ることを出来る時にやっていこうとする取り組みをいい形でスタートさせることができた。



「僕が先・私我先」「まだ流れてこないかな？」と流れるそうめんを食べようと長蛇の列。



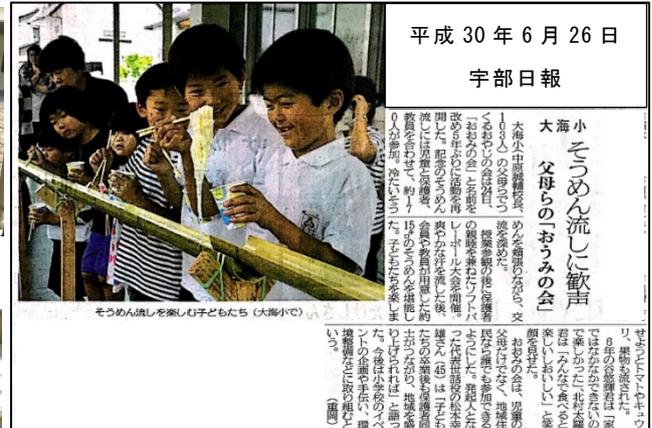
「おおみの会」のロゴマーク



校長先生も
そうめんをゆがく！



「おおみの会」ツツ
作りしました



「風はこうやってあげるよ」



思い思いの凧を作る子どもたち



「わあ！すごいねえ」



体育館の中を走って凧あげをする子どもたち

③大海をきれいに～ふれあい環境作業～

今年の夏は酷暑に見舞われ、夏休みのプール開放も中止せざるを得ない異常事態となった。そんな中8月19日にふれあい環境作業を行った。例年よりも1時間短縮して行ったが、多くの保護者や子どもたちの参加を得て、学校をきれいにすることができた。

しかし、この日以外にも自分の出来る時間出来る範囲で作業を行った保護者や、学校農園が草だらけになっていることを気にしてくださった地域の方によって草刈りや木の剪定をしていただくことができた。子どもたちも地域をきれいにと、クリーン作戦を毎年行っている。

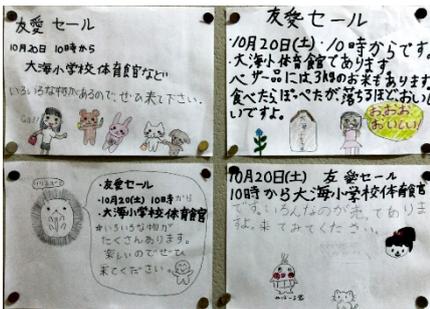


④大海の一大イベントへ「餅つき・餅まき 友愛セール」

地域の方々から遊休品の提供を受け、バザー形式で販売する友愛セールを10月に開催している。その会場では5・6年生の子どもたちによる商品販売の手伝いや、自分たちで育てたお米「大海ぶちう米」を自分たちの手で袋詰めし、ラベルを作り、そして販売した。どのように声掛けをしたらお客さんが関心を寄せてくれるか、そして売れるか、子どもたちが一生懸命考えた。販売開始から15分足らずで用意したお米すべてが完売し、皆で喜んでいる姿はとても印象的であった。

それら販売と同時に開催したのが「餅つき・餅まき」である。JA 山口中央秋穂支所並びに同女性部の多大なる協力を得て、子どもたちに餅つきを体験させることができた。また、今年は「だいがら（台唐）」を準備していただき、だいがらを使った餅つきも体験することができた。歴史民俗資料館でしか見ることのできないだいがらを実際に使うことができ、社会科の授業さながらの体験をすることができた。

餅まきは、多くの方の参加を得て900の餅をまくことができた。われ先にと餅の落下点に向かう人々の姿は「さすがは山口県人」といったところ。郷土の大切な文化として、子どもたちに伝わったのではないだろうか。また、本校区内にあまり大きな行事がない中で、小学校から発信する地域の一大行事として認識され始めることを願って、これからも継続して開催できるように努力していく必要がある。



地域に配った子ども手作りの案内状



「いらっしやいませ～!」「大海ぶちう米、おいしいですよ～!



地域の方に協力してもらった準備と、だいがらや杵・臼を使った餅つき体験



「いつまくの～?」



「こっちこっちー!」



「全員集合～!」 多くの方が集まった餅まき

⑤校内音楽会～校歌を地域の人々と歌おう～

11月に行う校内音楽会を、より地域の方に参加していただけるようにと、今年は「校歌を地域の人々と歌おう」というサブテーマをつけ、参加者全員で大海小学校校歌を歌う時間を設けた。

校歌は、子どもたちにとっては小学校に在籍しているときに一方的に歌わされるものであるかもしれない。しかしその体験は、年齢を重ねるにつれ、校歌を口ずさむとその当時の思い出や学校の光景などを回想させてくれる。校内音楽会で地域の方々と一緒に歌う「校歌」は、在校生と卒業生、また卒業はしていないが大海地域で暮らす人々にとって、思いを共有する一つの貴重なツールであろうと考える。また、子どもたちの歌や演奏をたっぷり聴いていただいた後に自らも歌うことで、より思い出に深く残るのではないかと考えたのである。

校内音楽会の一番最後に、子どもたちと観覧者が向き合い、全員で校歌を歌った。大海の子どもたちの元気な歌声は体育館に響き渡り、共にうたった保護者や地域の方々の心に響くものがあったのではないだろうか。

実際、校歌を歌った方の感想を以下に記しておきたい。

- 「歴史があって今があるって気づきます。つながりを思い出す共通のものって大切にしたいですね。地域とのつながる取組、素晴らしかったです」(地域の方)
- 「懐かしさでいっぱいですー。元気いっぱいの声でありがとうございました」(地域の方)
- 「懐かしく、とてもよい企画でした」(地域の方)
- 「懐かしく、我が子と一緒に校歌を歌えるとは思いませんでした」(保護者)
- 「児童と楽しく歌えたことで、保護者と児童が一つになったように思えました。大海小への愛情が深まりました」(保護者)
- 「小学生のころには歌詞の意味を深く考えることが少なかったのですが、大人になって改めて大海の情景を表しているのだと懐かしく感じました」(保護者)
- 「校歌を勉強する機会に恵まれ大変ためになりました。母校の校歌もたどってみたいくなりました」(保護者)

秋穂・大海地区すべてのみなさまへご案内
大海小学校教育振興会創立70周年記念事業
校歌を
地域の人々と
歌おう
大海小学校校内音楽会へのお誘い
11月7日(水)9時50分～11時55分
大海小学校体育館にて
※自動車でお越しの際は学校内にとめてください。
自動車の駐車場として運動場を開放します。
校歌・大海地区の皆様のご協力のもと、
大海小学校教育振興会は今年で70周年を迎えました。
それを記念して、大海小学校校歌を地域のみなさんと、
地域の方と一緒に「校歌」を歌いたいです。
ぜひ「大海」が一つになれる行事にしたいと思います。
元氣でかつつじた大海の子どもたちの姿を、
ぜひ目に、聴きに、そして歌いにきてください。
山口市立大海小学校・山口市立大海小学校教育振興会



「大海青々あの海の～♪」 子どもたちと保護者・地域の方が向かい合って歌った校歌



校内掲示
「しらはま掲示板」にて
校歌を特集したものを
掲示しました
バックナンバーも一緒に
見ていただきました

⑥地域と共にある学校づくりの推進

やまぐち型地域連携教育「秋穂地域協育ネット」を活用し、秋穂・大海地域在住の方とともにある学校づくりを推進している。地域に住むコマ回し名人による「昔の遊び」の実演や絵本の読み聞かせ、田植え指導、地震・津波発生を想定した避難訓練など、教職員や保護者だけでは及ばない部分に様々な支援をしていただけている。

そういった支援を受ける一方で、子どもたちによる地域の方が学校に来てもらいやすいように駐車場の水たまりを埋める環境整備をするなど、日ごろお世話になっている方々のために進んで行動する姿もあった。



コマ回し名人に見入る子どもたち



上手な読み聞かせに夢中



駐車場を平らにきれいに！



あいさつ運動に参加する地域の方



学校田で田植え指導をする地域の方



幼稚園や地域と共同で行った避難訓練
(地震・津波)

5 成果と課題

(1) 成果

①地域を知る

子どもたちの暮らす大海地域について、何気なく見たり聞いたりしていた「もの」「こと」について、少し掘り下げて解説を加える作業を行った。また、少しでも学校教育に準拠できるようにと、子どもの社会科や国語の教科書を見ながら計画をしていったところもあった。この成果物が「しらはま掲示板」であり「広報誌大海」であった。

これらを見聞きすることを通し子どもたちは「提供された情報を吸収する」のであるが、「ふるさと大海自慢コンクール」で子どもたちが大海に関する絵画や作文を作る作業は、「これまで提供された情報をもとに新しいもの・ことを創造すること」と言ってもよいだろう。これは「いのちの授業」にしても同じである。この度の取り組みを通して、子どもたちのなかで「新しいもの・ことの創造」へ少しでもつながったろうと考える。

②地域とふれあう

地域の方へ感謝をすること、地域の方へ学校に来ていただくこと、そして子どもたちと一緒に何かをすることに関する取り組みを今年度は本会としても意識的に行った。この取り組みは、子どもたちのことを保護者だけではなく地域全体で見守っていただくきっかけになったと考えている。校内音楽会で「校歌を地域のみんなと歌おう」と題して、多くの方へ参加を呼び掛けた。このことから例年よりも多くの地域の方に参加していただくことができたが、その中でこのような感想を述べた方がいた。「このような企画をしてもらえた

から、久しぶりに学校へ来ることができた。用事がなかったら学校へ来ることができないものね」と。このことは、学校がまだまだ地域の方が気楽に足を運ぶ場所になり切れていないことを表しているように感じた。

子どもたちにとって、多くの地域の方に自分たちが頑張ったことを見て・聴いてもらえることは、自己肯定感を増幅させるとともに、地域から愛されていると感じることにつながる。一方で、地域の方も「子どもから元気をもらおう」と子どもたちの姿を見て言われることから、学校にお越しいただき、子どもたちとの触れ合いを促進させるような仕掛けがもっとあってよいともいえる。この仕掛けの一つが「おおみの会」の発会である。

本校はコミュニティースクールを推進しており、この動きをより力強く推進させたい。

(2) 課題

①テーマの達成度合いの検証不足

しかしながら、成果で挙げたことについての科学的根拠を挙げることは出来ず、これをもってこのことが本当に正しいと言い切ることができない。また、これらの取り組みが子どもたちにどのような影響を与えたのか、これについても検証することができずにいる。計画段階から検証できるスタイルが必要ではなかったかと反省している。

②一般化の困難さ

この度の事業を行うにあたり、本会他の部員に負担をかけないようにと計画して実行したものである。特に、本年度は組織改革初年度で、「一人一役制」が始まったばかりであるため、その運用に力を入れているところであった。そのため、本事業の認知度に関しては、常任委員会レベルでは認識されているが、全委員会レベルでの認識は薄い可能性がある。

また、大海地域の過去・現在に関して特集した部分も多く、いわゆる郷土史的視点からの介入が必要な領域である。この度たまたま大海地域について関心を寄せて調べていたこともあり、計画に乗せることができたが、誰でも出来ることではないと考えている。そのため、関心の度合いも部員間で格差が生じているだろうことは容易に想像できる。

③学校教育とのシナジー

「しらはま掲示版」などの成果物は、学校側と連携をして子どもたちの教育の一助になるよう利用してもらえることが究極の目標であるが、これは本年度だけで到底出来ることではない。そのスタートラインに少しでも立つことができればと考えているところである。

(3) これからに向けて

本校は今後更なる児童数の減少に見舞われることが予測されている。昨今、学校の統廃合に伴う閉校の話題は事欠かない状況である。しかし、学校がなくなった地域に子どもを持つ若い世代の方々は暮らし続けるのだろうかとの疑問を持つ。

子どもたちが楽しく元気に過ごすことのできる地域は、それだけで活性化される。地域の未来を創造するのは、その地域の子どもたちであるならば、この地域で子どもが安心して学び育つ環境整備をするのは、我々保護者や地域の方々の責務であるとは言えないか。

本校が未来永劫子どもの元気や笑顔を育む場所であり続けるために、今できることをみんなで考えていきたい。